

鳥取大地震、大火超えた近代建築

五臓丸ビル

「守る」「つなぐ」市民動く

鳥取大地震と鳥取大火の記憶をとどめる鳥取市・智頭街道沿いの近代建築「五臓丸ビル」(同市二階町二丁目)を保存し、市街地活性化の「シンボル拠点」にしようと、商店主らが活動を始めた。老朽化

したビルを改修し、さまざまなイベントを催す計画だ。建物の価値にあらためて光を当て、国登録有形文化財指定の申請準備も進めている。

ビルは一九三二年築

所有者が一階で「五臓丸薬局」を経営して約三百六十平方メートル。二階と三階は戦前はレストランが同居し、若者らの「おしゃべりスポット」だったという。

市教委によると、市街地に残る鉄筋コンクリート建造物で最も古く、文化財課は「戦前のモダン建築をほうふつとさせ、文化財指定の可能性が高い貴重な建物」と説明する。

足元の宝

「あまりに身近な存在だったため、足元の立派な宝に気付かなかった。後世に残し、地

域が発展するシンボルにしたい」。智頭街道商店街振興組合の常村護理事長(五九はそう意気込む)。

商店主らは昨年、中心市街地の衰退に歯止めを掛けるため、ビル活用に着目。所有者の協力を得て耐震診断を行い、専門家に建物の実測・構造調査を依頼した。

十七日にビルの二階資金面で課題が残る。改修や耐震補強の

地域のシンボル

国登録文化財
申請準備も

ひとまず活動の拠点にする。建築家や歴史愛好家、有識者らと一緒に「保存する会」を立ち上げ、改修や活用の在り方などを話し合う。

費用は少なくとも一億円近く。今後は運営費も必要になる。

「保存する会」は市民に協力を呼び掛け、市民運動を盛り上げたい考え。ただ、建物の意匠を知らない市民が多いため、まずは現地を見学するようなイベントを計画しているという。

構想幅広く

活用のテーマは「文化・芸術・歴史のおいがするまち」。狙いは地域コミュニティを

常村理事長は「来年中には改修に着手しようと思う。商店街の人たちは自信を失っているが、地域みんなで協力して一つのことに挑む」と話している。



商店主らが地域活性化のシンボルにしようとする五臓丸ビル＝12日、鳥取市二階町2丁目

をはぐくむことだ。

料理や書道、パッチワークなどのカルチャークラスやミニコンサート、講演会…。イベントの構想は幅広い。周家の谷口シロー、洋画家の故・尾崎梯之助